

宇宙NOW No.251 2011 2

Monthly News on Astronomy from NHAO



パーセク：日本のマンガから学ぶ仏教と神道の心
特別寄稿：留学生異文化体験ツアー
from 西はりま：新星はくちょう座 V2468 の観測
from 西はりま：1月観測日記

ジェラルド ハープ
劉 幸宇
飯島 孝・内藤 博之
時政 典孝





日本のマンガから学ぶ仏教と神道の心

ジェラルド・ハープ

ポピュラーなメディアをもとに文化を判断する事は危険です。アメリカ人は、

エキサイティングで暴力的な映画を好み、それを輸出していま

す。結果として、世界のほとんどの人々は、アメリカはとて

も暴力的な場所と信じています。アメリカ人は一般的にこのよ



なた方は驚くことでしょう。このエッセイで私は、日本マンガのアメリカ人読者として学んだ日本の『哲学』について述べたいと思います。

例えば、仏教では、私たちにすべては結びつきがあり、私たちには、それぞれふさわしい居場所があると教えています。これは、とても能力があるが、何でも一人でやろうとする若いリーダーが出てくるマンガの中で表現されています。ヒーローはいつも、仕事に挫折し目的を達成するためには周囲の力が必要となる時まで失敗します。アメリカの話では常に個人の成功の方に力が注がれています。また仏教では、「無情」を強調します。そして、メジャーなマン

ガのキャラクターはしばしば死んでしまいます。これはアメリカ人にとつてはショッキングなことであり、奇妙なことです。アメリカ人は悲劇を嫌い、死を考えようとはしません。

アメリカは産業革命時に生まれ、アメリカ人は自然とはあまり強い結びつきがありません。対照的に多くのマンガのストーリーは、自然を擬人化する神道にルーツを持っています。例えば、プリンセス・モノノケ(ものけ姫)です。マンガでは、人間はいつも自然と対立し、人間は時々負けます。アメリカでは、人間の不注意により自然が襲いかかってくるという話は、ほとんどあ



りません。アメリカは大量消費国家であり、資源を浪費していることで知られています。

私は、多くのアメリカ人がマンガやその他の日本の文化から恩恵を受けることを願っています。

(ジェラルド・ハープ)

アメリカS E T I研究所)

翻訳・編集者

特別寄稿

留学生異文化体験ツアー 劉幸宇

昨年11月27日(土)〜28日(日)、文部科学省の戦略的^{戦略的}大学連携^{連携}支援事業である「ポアアイ4大学による連携事業」の一環として一泊二日の「留学生異文化体験ツアー」を西はりま天文台公園で実施しました。今回の参加者は神戸学院大学の留学生20人(国籍は中国、イギリス、オーストラリア、韓国、カンボジア)、神戸学院大学と神戸女子大学日本人学生20人、引率スタッフ6人の計46人でした。

27日9時40分頃、参加者は神戸学院大学でバスに乗車し、現地へと向かいました。車内で引率者が五つの班の班分け表と部屋割り表を参加者にわたすと、車内にはたちまち歓声があがりました。「僕が金星班、君は水星班?」「僕は土星人だよ!」

「今晚オリオン座に泊まるよ!」緊張していた交換留学生も会話が盛り上がり、元気がいいの車内でした。正午、目的地に到着し、大撫山頂上ではありのままの自然に魅了^{みりょう}され、すぐカメラに取^とめた人もいました。食堂で昼食をとった後、坂を上り、頂上にある天文台のスタディールームに到着しました。黒田武彦園長が挨拶^{あいさつ}され、天文台の沿革等を説明された後、施設見学の案内がありました。

世界最大の公開天体望遠鏡の側で、黒田園長は、「太陽、地球、われわれの体を構成する物質はすべて宇宙に由来するものです。星の誕生、死の営みの中で生命の材料が生まれました。われわれ人類の共通の故郷は宇宙です。そこに国境はありません。残念ながら、地球という星では紛争^{ひんざつ}が頻発^{ひんぱつ}しています・・・」と世界平和の大切さを訴^{うた}えられました。参加者らは黒田園長の話が終わると巨大な望遠鏡を見上げ、宇宙への好奇心をつのらせ、大いにわきました。

施設見学後の班別交流会では、自己紹介後、日本留学から学んできたこと、故郷自慢、大学生活などをめぐって、発言がポンポンと飛びかいました。



「近接戦」中のドッジボール大会

午後3時半、イベント広場でドッジボール大会を開催。五つのチームで「近接戦」、各チームが一丸となり、必死に対戦しました。試合中、身をかわすひまがなく仰向けに倒れる選手や、終始^{しじう}巧妙^{こうまう}にボールに身をかわす「不死鳥」のような選手もいました。そして、激戦の結果、「火星チーム」が優勝しました。

夕方5時半からは夕食の時間。激しい運動だったので、参加者らはボリューム満点のミックスフライ定食に大満足でした。満腹になったところで表彰式の開催。優勝チームの班長が景品袋を手にし、満場の喝采^{かつさい}を受けました。また、参加賞もあり、皆大喜びでした。18時20分から「天文講演会」を開催。天文台の坂元誠研究員が天文台の沿革や宇宙について、写



宇宙への好奇心をかり立てていた天文講演会

真で分かりやすく説明され、参加者らの宇宙への好奇心がかり立てられました。その次は「天体観望会」。秋晴れのとてもいい天気に恵まれ、大撫山の星空がびつくりするほど幻想的で大変きれいでした。満天の星がきらきら、星空にかかった天の川もくっきり見えました。都会では光害があるため、こんな美しい夜空を見ることは望むべくもありません。参加者らが列を作り、真つ暗な観測室で世界一の公開天体望遠鏡「なゆた」の接眼鏡で星雲や木星を観察し、思

わず感激の声があがりました。また、ベランダでは小型望遠鏡で星を観望しました。

9時以降、各班が自由行動し、小型望遠鏡で星を見たり、お風呂の湯船で歓談したり、園内を「探検」したりしました。

翌朝6時半頃、ご来光観賞の参加者有志が頂上へ移動。当日は晴れていましたが、残念なことに地平線に雲がたちこめ、日の出の瞬間は拝めませんでした。しかし、残月がまだ青空にかり、皆争って小型望遠鏡で月のクレータを観望し、はつきり見えた月の表面に皆大興奮。「一番身近な星はこんなきれいなものなのだ」と感激しました。接眼鏡に向かってデジカメで撮影する人もいました。折りしも紅葉シーズンなので、かすかに見える遠く離れた雲海にみられた山々は赤色に鮮やかに染められていました。7時過ぎ、太陽がやっと雲海から現われると、思

わず万歳三唱した人がいました。皆デジカメや携帯電話で大撫山のご来光と紅葉の山々に向いて、夢中でシャッターを切りました。

7時半より防災意識高揚教育の一環として、デイキャンプ場で非常食の朝食体験。メニューはインスタントライス、ツナ缶、保存水、クラッカーでした。全員が朝日を浴びた中で興味津々の初体験でした。引き続き防災講演会を開催。佐用町企画防災課復興企画室久保正彦室長をお迎えし、テーマは「佐用町を襲った平成21年



大撫山「きらきらランド」の星

台風第9号災害の記録から」でした。参加者らがビデオや写真を見て、2009年の大水害の恐ろしさを自分の目で確かめる機会となり、自然災害の少ない大陸出身の留学生らも「地球異変で、自然災害はすでに『対岸の火事』ではない」とおどろいていました。その後、講演を受けての班別研修会を開催し、各班がレポートをまとめ提出しました。

11時半からデイキャンプ場でアウトドア体験。メニューはカレーライスで、各班が事前に決めた分担で炊事を開始しました。薪を運んだり、火をおこしたり、野菜を切ったり、それぞれの分担で皆準備にとりまじそうでした。かんたんなメニューですが、ほとんど初体験のため、火加減は難しいようでした。それでも各班が「一致団結」し、約一時間後、カレーライスがやっと出来上がりました。自分の手で作ったものもあり、



手作りのカレーは味最高！

熱々のできたてのおいしさに皆大満足しました。

14時30分、全員が天文台のドーム状の建物をバックにして記念撮影。引率者が一眼レフで数十枚も撮り、どの写真でも被写体全員の顔が綺麗に写っていました。

そして、14時40分、全員がバスに乗り、帰途につきました。一泊二日のツアーで、皆すつかり仲良くなり、涙しながら別れを惜しむ学生もあり、後日一緒に忘年会を行おうと約束した学生もたくさんいました。

世界一の公開天文台での留学生異文化体験ツアーが無事終了しました。参加者らにとっては大変盛りだくさんの一泊二日であり、忘れたいツアーでした。

今回のツアーについてアンケート調査を実施しました。参加者の声（抜粋）は次のとおりです。

「天文台についていっぱい勉強した。星を見て癒された」

「泊まりだったので、高校生の時にもどったように学生同士の交流ができた。ドッジボール大会と班での行動がよかった。世界一の公開天体望遠鏡が見られた。佐用町の勉強ができた」

「班分けのドッジボールがめっちゃ良かった。楽しかったです。最初にスポーツをして急にチーム仲間と仲良くなれた点がよかった。全部の行事がとてもすてきだった。

た。星はきれいでした。たくさんの人と交流した」

「留学生との交流。飯盒炊きでいっしょに食べたことがよかった。その他もすべてがよかった」

「星やご来光がきれいで感動した」

「日本の景色を味わいながら日本人学生と交流した」

「一泊二日なのでゆつくり長時間交流できた。留学生だけでなく、日本人学生とも一緒に学ぶことがいっぱいよかった」

「一泊二日だったので、じっくり交流できた。スポーツ大会、カレーライス作りが楽しかった。天体観測はなかなか個人で行くことができないので、バスツアーでみんなで行けて良かった」



参加者全員の笑顔の一枚

「いろいろな国の人としやべって日本と違う考え方、文化などを知った。一泊二日したことで、長い間いっしょにいられたから、なおさら交流が深まった……」

本文の最後に、筆者が参加者全員に代わり、快く本ツアーを引き受け下さいました黒田武彦園長と坂元 誠研究員をはじめとする西はりま天文台公園関係者の方々に対して、衷心より感謝を申し上げます。
(りゅうこうう／
神戸学院大学・友の会会員)



from 西はりま...

新星はくちょう座 V2468 の観測

飯島 孝・内藤 博之



図 1: イタリア北部 (ヴィチエンザ県) にあるアゴ天文台と望遠鏡

2008年3月にはくちょう座に出現した新星V2468をイタリアのアジアゴ天文台(図1)と西はりま天文台(なゆた望遠鏡)で観測しました。その観測結果をまとめた論文が2011年2月に出版されましたので、その内容の一部を紹介します。

新星は白色わい星とよばれる星をもつ連星系でおきます。白色わい星の表面に伴星からのガスが降り積もり、たまったガスが爆発す

る現象です(本誌193号参照)。爆発してから時間がたつと、惑星状星雲と同じようにガスが広がり、星雲期と呼ばれる状態に入ります。

今回の新星は星雲期にも奇妙なスペクトルの変化を見せました。

まるで広がったガス全体の形が変化しているように見えたのです。しかし、大きく広がったガスの形が急に変化するとは考えられません。

そこで、私たちは白色わい星から放射される紫外線の放射が変化していると考えました。例えば、白色わい星のまわりにできた降着円盤がコマのようにふらつく歳差運動(さいさいうんどう)をすることで、紫外線の放射に変化が起こるかもしれません(図2)。

今後、より多くの新星を観測することで、新星爆発

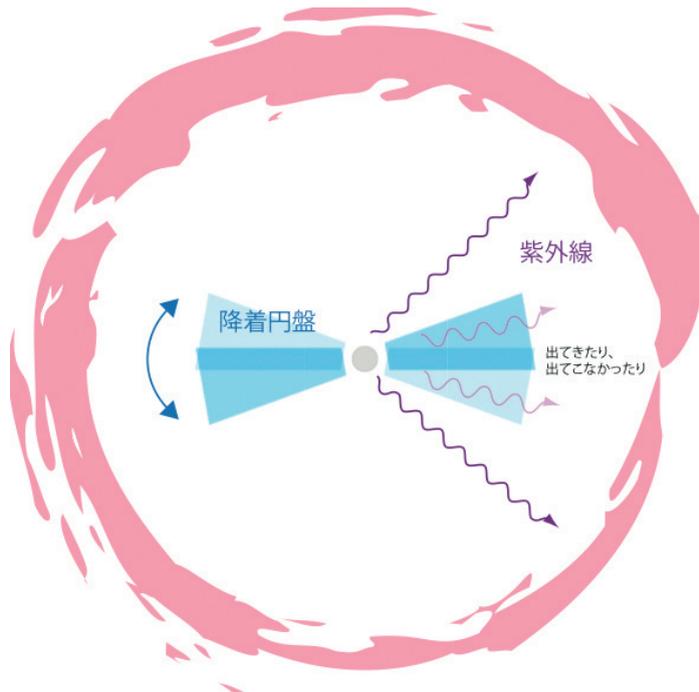
への理解を深めていきたいと考えています。

参考: Iijima & Naito 2011, A&A, 525, 73

(いいじまたかし/パドバ大学アジ

アゴ天体物理観測所)

(ないとうひろゆき/名古屋大学)



← 図 2: 降着円盤が紫外線放射を変化させているイメージ図。降着円盤によって白色わい星からの紫外線が遮断される??



1月観測日記

時政 典孝

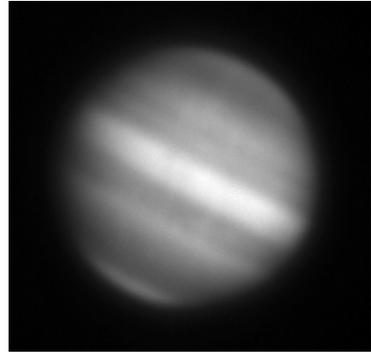


図1: 波長 890nm による木星。1月の観測画像



図2: 祥雲館高校の観測の様子

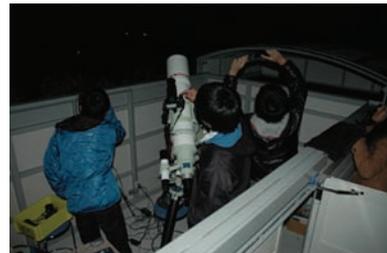


図3: 兵庫県立大学附属高校天体観測室での観測の様子



図4: 美星天文台観測室での観測の様子。望遠鏡と分光器のカメラを同時に操作します

天文台公などではさまざま

な観測が行われています。1月に行われた西はりま天文台が関わる天体観測を紹介します。

4日 東北大学との共同観測

東北大学の佐藤隆雄さんらを中心に、一昨年より消失した木星の1本の縞模様(縞模様)が現れ始めたのを捉えるために急ぎよ企画されました。縞模様消失

の謎が解けることにご期待を。

6日 祥雲館高校との共同観測

三田市の祥雲館高校天文部のみなさんと定期的に60センチ望遠鏡で行っている小惑星探査の観測です。未知の天体探しにワクワクしながらの観測です。

13日 18日 19日 県大附高の観測(月までの距離)

兵庫県立大学附属高校自然科学部天文班が、月と近くにある5等星ほどの星を、タイの高校生たちと同時撮影しました。昨秋から6度目のトライである19日の観測でようやく同

時撮影に成功しました。

21日 22日 県大附高の観測(かに星雲の膨張)

天文班の別グループが、膨張するかに星雲の観測を、岡山の美星天文台101センチ望遠鏡と分光器にて行いました。複雑なスペクトル画像にいったいどんな結果が導かれるのか、私も興味津々です。

28日 スターウォッチング

一般の方に「すばる」を双眼鏡で見てもらって、見える星にマークをする方法で夜空の調査を行いました。今回は9人の参加があり、

寒い中無事観測ができました。

30日 おうし座V773の試験観測

60センチ望遠鏡で2月に観測を計画しているおうし座V773がUバンドとH α フィルターで撮影できるか試験観測を行いました。

31日 オリオンKL天体

なゆた望遠鏡と近赤外線カメラで、オリオン大星雲中のKL天体を撮影しました。きれいな画像となりましたらお見せします。(ときまさのりたか)

主任研究員)



グリーゼ 581g は、ほんとに第2の地球か？ 鳴沢 真也

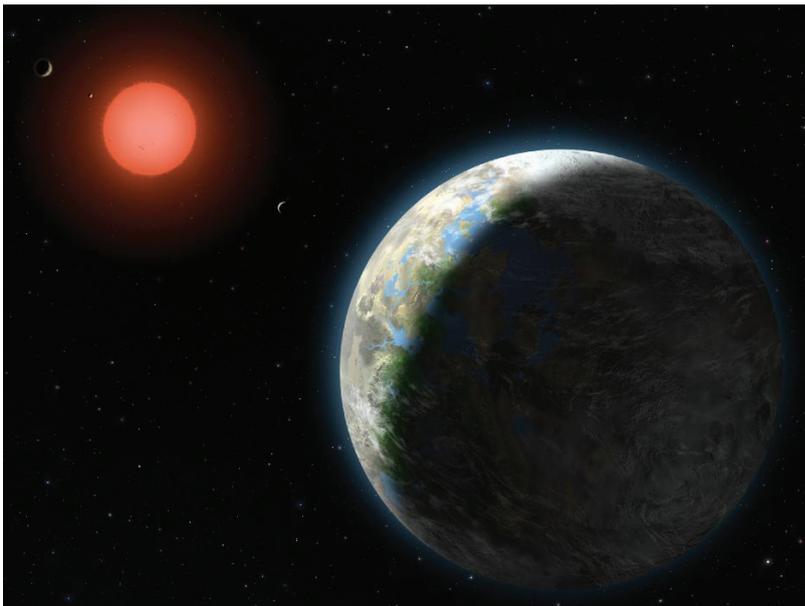
昨年9月30日にてんびん座のグリーゼ 581 に第2の地球が見つかったというニュースが流れました。そもそもはアストロフィジカル・ジャーナル誌に掲載されたカリフォルニア大学のスティーブン・フォゴト氏らの論文がニュースソースです。新たに彼らが2つの惑星を見つけ、これでこの恒星系の惑星は6個になりました。このうち第4惑星 g には液体の水の存在が考えられるというのです。さらにこの惑星の質量は地球に比較的近いので（地球質量の3.8倍）、「第2の地球」の発見か、というわけなのです。

しかしこのニュース、慎重に読んだ方がいいと思う点があります。そもそも、フォゴト氏らは、惑星 g を直接発見したわけではありません。「観測されたデータをうまく説明するには、惑星 g が存在していればよい」ということなのです。数値計算の経験上、私は彼らの主張を完全には納得していません。スイスの専門家のチームも、惑星 g の存在を認めていないようです。

さらに、フォゴト氏がマスコミに言った言葉が問題になったのです。彼は、「この惑星には100%生物が存在する」と発言したのです。彼のこの言葉は日本のメディアでも取りあげられました。いくらなんでも、これは言い過ぎです。

グリーゼ 581 に関する研究論文は昨年からいくつも発表されています。今年になってすでに2つの論文が出たのですが、そのうち中国のグループの研究は、第5惑星 d（質量は地球の8倍）にも液体の水の可能性があると結論しています（彼らの計算には惑星 g は考えに入れてません）。

「第2の地球」と言われている惑星 g の存在には疑問が残りますが、このグリーゼ 581 系は、SETI のベスト・ターゲットには変わりありません。筆者が主催している世界合同 SETI 観測のターゲットでもあります。



← グリーゼ 581 系の想像図。NASA のホームページより

[速報] 2011年2月2日 NASA 発表。探査機「ケプラー」は、はくちょう座とこと座に1235個の惑星候補を発見しました。このうち54個には液体の水が存在する可能性があり、さらにそのうち5つは地球と同程度のサイズです。

▼4日(火) 仕事始め。年末・年始に降った雪が残る寒いスタート。天文台南館の屋上にレドーム(雨雲レーダ)が光る。かつこいい。石田台長が立ち会って年末に工事したとのこと。

▼5日(水) 宿泊が17名あり今年の観望会初め。寒い。

▼6日(木) 4名の宿泊者観望会。雪が舞う中、望遠鏡にかからぬよう様子をみながら木星、M42など風下の低高度にある天体を見ていただく。終了後は直ちに主鏡などの点検と乾燥作業。

▼8日(土) 友の会例会。筆者が担当。天気良く、全ての観望プログラムを予定通り実施。

▼9日(日) 恒例の翌日行事「もちつき大会」。辛み餅絶品。

▼11日(火) 産経新聞夕刊に鳴沢研究員の紹介記事掲載(4回のシリーズ)。

▼13日(木) 天文台北館裏に放送用スピーカー設置。これでイベ

ント時の案内放送に死角なし。
▼14日(金) 和歌山の下代^{げしろ}氏来台。なゆたの時刻装置の保守作業。
▼15日(土) 数日前の点検時に筆者が忘れた「カセグレン装置交換機構のストロピンの影響で、



文明 園谷
主幹研究員

なゆたの制御系が安全のためストロピンの原因がわかるまで30分。ライキ。休日の坂元研究員を呼んで原因がわかるまで30分。
▼16日(日) 雪のため観望会は中止。しかも大雪警報発令。はりま宇宙講座で坂元研究員出張。

▼17日(月) 坂元研究員の कोरोキウム。お題は「県立大高度産業科学技術研究所で修行中の鏡面メッキ」。園内くまなく約50センチの積雪。皆ではりきって雪かき。

▼18日(火) 時政研究員、県立大学付属高校へ出向(観測指導)。
▼19日(水) 天文台ネットワーク回線拡張工事。通信速度を2倍に。これでキラキラchへのアクセス混雑も少しは改善されるか。

▼20日(木) 鳴沢研究員、名古屋での講演のため出張(名古屋中小企業フォーラム)。県立大天文部の観測、積雪で部員が集まらず中止。

▼21日(金) 久々に宿泊者があつて観望会。しかし、なゆたはエンクロージャ凍結の恐れがあつて稼働不可。60センチ望遠鏡の出番。全くもって寒い。

▼22日(土) 坂元研究員がエンクロージャを確認し、スリット半開で、なゆたを仮運用して観望会。通常運用には遠く宿泊のある日毎に様

子を見て判断。

▼25日(火) 筆者、東京出張(研究助成金の選考出席のため)。

▼26日(水) 筆者と県立大高度産業科学技術研究所の渡邊准教授とで二次選考本番に臨む。緊張。

▼27日(木) 国際宇宙ステーション(ISS)と輸送機こうのとりが日面通過。時政研究員が撮影に挑戦。NHK神戸が取材。かろうじてISSのみとらえる。宿泊者観望会は2名。時折雪が吹きこむ観測室内は非常に寒い。

▼28日(金) また朝から雪。午後によりやく晴れてきたが気温はプラスになつたのみ。寒波の影響が治まらない。観望会4人の参加があるも、なゆたは運用見合わせ、60センチで。

▼31日(月) 坂元研究員と筆者、なゆたの制御系の改修計画打合せのため、三菱電機通信機製作所(尼崎)へ。



Come on! 西はりま

昼間の星と太陽の観察会

日時：2011年3月25日～4月5日

(ただし3月28日月曜日は休園)

第1回：13:30～(金星が見れます)

第2回：15:30～

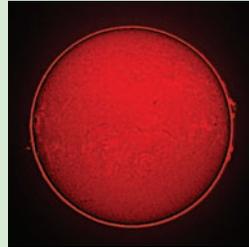
場所：天文台北館4階観測室

対象：一般(参加費無料、予約不要)

内容：60cm望遠鏡を使って昼間に見える一等星を観察します。また専用の望遠鏡を使って白色光とH α 光で太陽も観察します。

日曜日には午前11時から実施します。

主にサイエンス・ティーチャーがご案内。



1月のおおなで☆便り 園長 黒田 武彦

- 2日(日) 縁起の良い春にしようと思ったが、風邪気味。
- 4日(火) 仕事始め、佐用町商工会賀詞交換会であったが、風邪の兆候回復せず休暇。
- 5日(水) 出勤したものの体調悪く午後休暇。
- 6日(木) 病院で検査を受ける。新型が60%以上らしいが、年齢相応にA型インフルエンザのご託宣。
- 8日(土) 友の会例会も大事をとって不参加。熱は下がってきた。
- 9日(日) 熱は下がりウイルス死滅、2月の「星なかまの集い」の準備で一時的出勤。
- 11日(火) 県立大、宇宙科学の講義で本年の仕事始め。
- 12日(水) 三菱電機関西支社社会システム部長、次長が新年挨拶。
- 13日(木) 休暇をとり、森本さん追悼の会の会場下見や打合せ。
- 14日(金) 国立天文台で科学記者のための天文学レクチャー、依頼を受け、「有志による天文学支援くペルーへの支援を例に」を講演。関口和寛さん、海部宣男さんも日本のODA、IAUの支援等について講演。
- 18日(火) 「FMげんき」から出演依頼、平和をテーマに。夕刻、事務分担、職員配置に関する総務課ヒアリング。
- 20日(木) 23年度佐用町予算査定。午後、恒星社厚生閣社長・片岡さん来園。福江純さん中心に進んでいる天文検定の監修者にと依頼に。夜、県立大自然研所長と懇談。
- 26日(水) 姫路で「星なかまの集い」実行委員会。
- 27日(木) 県立大附属中プロジェクト学習、宇宙天文班は風邪で2人のみの参加だったが、来月発表のための資料作成開始。
- 28日(金) 佐用町災害復興計画フォローアップ委員会に出席。
- 29日(土) 佐用町甲大木谷公民館で陰陽道や暦の話。
- 31日(月) 朝、姫路で県労政福祉課長と打合せ。



は友の会会員のみなさんだけへのお知らせです。

長寿星を見よう！

日時：2月20日(日)、27日(日)
 19:30～21:00 (受付：19:00 から)
 場所：天文台南館
 対象：一般 (参加費無料、予約不要)
 内容：2月中旬から3月上旬は、りゅうこつ座アルファ星、カノープスを観望会の時間帯に見ることができます。日本からは南の空の低いところで輝くので、なかなか見るチャンスがなく、見ることができれば長生きできると親しまれています。

園長の天文楽セミナー

日時：2月19日(土) 15:00～16:00
 場所：天文台南館スタディールーム
 対象：一般 (参加費無料、予約不要)

第125回 友の会例会

日時：3月12日(土) 18:30 (受付)～翌朝
 費用：宿泊 大人500円、子供300円
 ※シーツ代金が含まれています。
 朝食500円 (希望者)
 申込方法：申込表(下表)を参考に
 電話：0790-82-3886、FAX：0790-82-2258
 e-mail：Subjectに「Mar」と記入し、
 アドレス「reikai@nhao.jp」へ
 申込締切：家族棟(別途料金要)2月12日(土)
 グループ棟泊、日帰り3月5日(土)
 ◎テーマ別観望会
 A: なゆたでクエーサーなどを見る
 B: 60cmで月を見よう、撮ろう
 C: 小型望遠鏡を使って土星を見よう
 一回に限り会員以外の方も例会に参加可能です。知人、友人の方をお誘いください。

例会参加申込表

会員No.	氏名		
宿泊棟	家族用	ロッジ・グループ用	ロッジ
	大人	子ども	合計
参加人数	()	()	()
宿泊人数	()	()	()
シーツ数	()	()	()
朝食数	()	()	()
部屋割	男 ()	女 ()	家族 ()
	グループ別観望会の希望コース ()		

天文講演会

日時：3月20日(日) 14:00～15:30
 場所：天文台南館スタディールーム
 対象：一般 (参加費無料、予約不要)
 講師：丹羽 隆裕 (嘱託研究員)
 概要：夜空に輝く星座の星々は、太陽と同じ「恒星」で「暗黒星雲」と呼ばれる天体の中で育ちます。暗黒星雲にはいろいろなタイプがあり、その環境は実に多様です。
 今回は、私(丹羽)の研究成果を踏まえ、紫外線の照射を受けながら恒星を『大量生産』している暗黒星雲にスポットを当て、恒星の『生育状況』を見てみたいと思います。

西はりま天文台公園ホームページ

<http://www.nhao.jp/>
 公園施設紹介、イベント情報、天体画像、情報発信番組キラキラch、など。



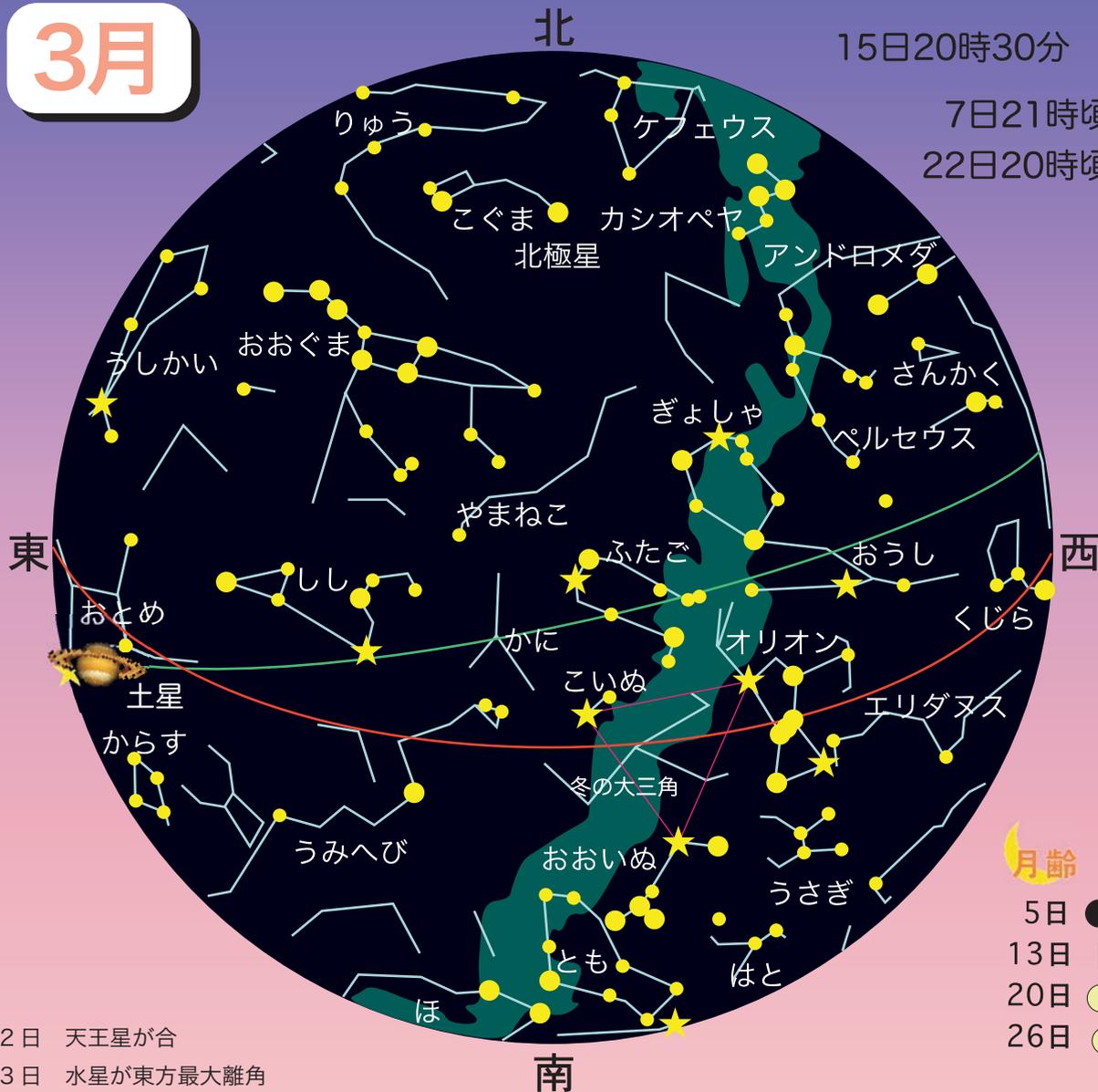
編集後記

今月のパーセクはSETI(地球外知的生命探査)研究所の天体物理学者ジェラルド・ハープ博士でした。写真左の人物(右は上司のジル・ターター博士)。日本文化にとっても興味を持っているジェリーはあるアンテナ群を使って観測をしています。さてその名前は? ヒントは12月号の表紙。先月号の答えは、フランク・ドレイク博士でした。(鳴沢真也)



ほしぞら

3月



15日20時30分

7日21時頃

22日20時頃

月齢

- 5日 ●
- 13日 ◐
- 20日 ◑
- 26日 ◒

- 22日 天王星が合
- 23日 水星が東方最大離角

表紙の説明

積雪の天文台公園。2011年1月17日。前夜に降った雪で約50センチの積雪となりました。管理棟の屋根には長いつららが何本も。

Canon EOS Kiss Digital N
 1/320秒
 F/14

宇多和博(自然学校係主査)撮影。

今月のみどころ

西の空にはまだ冬のにぎやかな星座が輝いています。東には、かに座、うみへび座、しし座など、春の星座が出ています。おとめ座も姿を現します。そして、土星も昇ってきます。

日没直後の西の空には水星が見えています。23日が東方最大離角なので、この前後が見ごろです。まだ水星を一度も見られていない方は、特にチャレンジして下さい。

一方、夜明け前の東の空には、明けの明星が輝いています。暖かくなってきましたので、早起きしてご覧ください。